

教科名	家庭科	校 種	高等学校
-----	-----	-----	------

科 目 の 配 当				
学年	科目名	必・選	単位	授業展開など、授業の形態
1 年				
2 年	家庭基礎	必	2	講義、実験、実習によって展開 実習は教員1名、助手1名で実施
3 年	生活文化	選	2	講義、実験、実習によって展開 実習は教員1名、助手1名で実施

科目名（教科名）		家庭基礎（家庭）			
学年	2	単位数	2	必修・選択・展開	必修
目的	1. 人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活などに関する基礎的・基本的な知識と技術を学ぶ。 2. 学習した知識や技術を活用し、家庭や地域の生活課題を主体的に解決する態度を学ぶ。 3. 家族や社会との共生を目指し、生活の充実向上を図る能力と実践的な取り組みを学ぶ。				
学 期	授 業 の 項 目			内 容	
1 学 期	家族・社会との共生 第1章 自分らしい人生をつくる 第2章 子どもと共に育つ 第3章 高齢社会を生きる 第4章 共に生き、共に支える 生活の自立 第5章 食生活をつくる 第8章 経済生活を営む			・18歳で成年を迎えるにあたり、必要な知識を身につける。 ・生涯発達の視点、青年期の課題、目標を持って生きる ・人生をつくる ・家族・家庭を見つめる、これからの家庭生活と社会 ・高齢期を理解する、高齢者の心身の特徴、これからの高齢社会 ・私たちの生活と福祉、共に生きる、社会保障の考え方 ・食生活について考える、食事と栄養・食品 ・職業生活を設計する、計画的に使う、消費行動と意思決定	
	第7章 住生活をつくる 第8章 経済生活を営む 第6章 衣生活をつくる 第5章 食生活をつくる			・SDGsへの理解を深め、当事者としての実感を持つ。 ・住生活について考える、住生活の計画と選択 ・これからの住生活 ・国民経済・国際経済と家庭の経済生活、現代の消費社会 ・これからの消費生活と環境 ・被服の役割を考える、被服を入手する、被服を管理する ・これからの衣生活 ・これからの食生活、生涯の健康を見通した食事計画 ・調理の基礎、実験	
3 学 期	第5章 食生活をつくる 生活の創造 第9章 生活を設計する			・調理実習 ・生涯を見通す ※生徒の実態、コロナ感染拡大状況に応じて内容、進度が変更されることがある。	
評価の 観点	【関心・意欲・態度】		生活の技術について関心を持ち、その充実向上を目指して主体的に取り組むとともに、実践的な態度を身につけている。		
	【思考・判断・表現】		家庭や地域の生活について課題を見出し、その解決を目指して思考を深め、適切に判断し工夫し創造する能力を身につけている。		
	【技能】		家庭や地域の生活を充実向上するために必要な基礎的・基本的な技術を身につけている。		
	【知識・理解】		家庭生活の意義や役割を理解し、家庭や地域の生活を充実向上するために必要な基礎的・基本的な知識を身につけている。		
評価の方法と割合	● 評価方法：定期試験(学期1回)と平常点(提出物・実習・実験態度など)で各学期の成績を算出する。 ● 割合：定期試験 60 % 平常点 40 %として学期の成績を算出する。				
教科書・副教材等	● 教科書：家庭基礎（東京書籍） ● 問題集：なし ● 副教材：LIFE おとなガイド（教育図書株式会社）				

科目名（教科名）		生活文化（家庭）			
学年	3	単位数	2	必修・選択・展開	選択
目的	1. 日常生活のマナーや文化を知り、実践する態度を学ぶ。 2. 被服の基本型と文化、着装などに関する知識と技術を学ぶ。 3. 服飾文化の伝承と創造に寄与する能力と態度を学ぶ。 4. 食生活の変遷と文化、日本と世界の食文化などに関する知識と技術を学ぶ。 5. 食文化の伝承と創造に寄与する能力と態度を学ぶ。				

学 期	授 業 の 項 目		内 容
1 学期	生活とマナー・文化 服飾文化の伝承と創造		・ 日常生活のマナーと文化（茶道の基礎） ・ 被服製作の基礎、着物の構成と名称 ・ ゆかたの製作（裁断、縫製）、ゆかたの着装
2 学期 （3 学期）	食生活の充実と向上 食文化の伝承と創造 手芸品の伝承と創造 生活の課題と実践		・ 生涯の健康を見通した食事計画 食事バランスガイド ・ 対象別の献立と調理 幼児や高齢者の食事 ・ 様式別の献立と調理 和食の献立、中国風献立、洋風献立など ・ 世界の料理の特徴と文化、日本の料理の特徴と文化 ・ 調理の基礎 集団調理（安全と衛生） 調理の目的、種類と基本操作 ・ 各種手芸に関する知識 手芸の種類、特徴及び変遷、技法 手芸品の製作 ※生徒の実態、コロナ感染拡大状況に応じて内容、進度が変更されることがある。
評価の 観点	【関心・意欲・態度】	生活の技術について関心をもち、その充実向上を目指して主体的に取り組むとともに、実践的な態度を身につけている。	
	【思考・判断・表現】	家庭や地域の生活について課題を見だし、その解決を目指して思考を深め、適切に判断し工夫し創造する能力を身につけている。	
	【技能】	家庭や地域の生活を充実向上するために必要な基礎的・基本的な技術を身につけている。	
	【知識・理解】	家庭生活の意義や役割を理解し、家庭や地域の生活を充実向上するために必要な基礎的・基本的な知識を身につけている。	
評価の方法と割合	●評価方法：定期試験（1学期2回各25分、2学期1回）と平常点（提出物・実習・実験態度など）で各学期の成績を算出する。 ●割合：定期試験50%、平常点50%として各学期の成績を算出する。		
教科書・副教材等	●教科書： 家庭基礎（東京書籍） ●問題集： なし ●副教材： 家庭科55資料集（教育図書）		